

令和2年度 中央地域包括支援センター自己評価報告書

		包括情報	
自己評価実施日	令和2年12月3日	法人名	医療法人 王子総合病院
行政評価実施日	令和3年1月18日	責任者	高木 英克
運営協議会開催日	令和3年3月23日	所在地	苫小牧市若草町3丁目4番8号
		連絡先	0144-36-3712

地域情報	
担当地区	旭町、一本松町、入船町、王子町、大町、表町、春日町、木場町、寿町、幸町、栄町、汐見町、清水町、新中野町、末広町、錦町、晴海町、船見町、本町、本幸町、緑町、港町、元中野町、若草町
高齢者人口	6,041 人(R2.10.1現在)
高齢化率	29.2 %(R2.10.1現在)
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の中心部で、交通の便もよく公共施設はあるが、スーパーなど買い物場所が少ない。</li> <li>・低所得者の多い市営住宅と戸建てやマンションなどが混在する地域。</li> <li>・市営住宅の取り壊しや新旧アパートも多く入居者の入れ替わりもあり、なかなか地域活動に結びつかない地域もある。</li> <li>・医療機関は多く、多種の施設もあるが、サービス付き高齢者住宅や共同住宅などは少ない。</li> </ul>

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 2 人	常勤職員 4 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 2 人
社会福祉士 1 人	
その他 1.5 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 5.1年

総合評価	
自己評価	行政評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの発生で、新たな取り組みを模索する年となった。</li> <li>・慢性的な職員不足の中でも課題(地域、個別)に、スタッフ全員で関わり、それぞれの専門性や役割を担うことでの解決に結び付けていけた成功体験は、丸抱えの支援からの脱却への足掛かりとなった。</li> </ul>	新型コロナウイルスの影響により、今年度の取り組みは縮小したが、3職種の専門性を踏まえ、職員不足の中でもできる範囲で努力したことを評価する。また、スタッフ全員で適宜情報を共有しながら支援する体制が整っている。今後は、コロナ禍に合わせた活動計画を立てて取り組んでいただきたい。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)委託業務の趣旨及び内容・進め方に対する共通理解に努めている		
(3)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(4)PDCAサイクルを活用した運営を行い、業務を継続的に改善している		
(5)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有(研修内容のフィードバックや回覧等)をしている		
(6)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(7)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(8)苦情の内容と対処について記録し、センター内共有し再発防止に努めている		
(9)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(10)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りが無い(占有率50%未満)		
(11)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(12)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・少ないスタッフで業務を行ってきたことで、日常的に業務の進捗状況を共有するなどが習慣的に行えるようになったことで、サービス事業所や居宅介護支援などの選定も共有しながら行っている。	職員全体で事業計画の作成から自己評価まで取り組んでおり、その都度情報の共有がなされている。また、市内外の研修内容についても職員全体で共有し、意思統一がなされていることを評価する。今後も人材確保に努め、職員間が同じ目的のもとに協働し活動することを期待する。
2 共通の支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・コロナ禍でできる範囲のことを他機関とも協力しながら、情報収集と発信に努めている。 ・課題解決のための情報収集、情報集約、情報発信を日常的に意識づけし、相互連携を図る。	今年度は、活動が制限される中の取組であったが、地域ケア会議を通して地域課題や実態把握を行い、資源開発に向けた取り組みをしていることを評価する。今後もコロナ禍でのネットワーク構築を期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談では的確に状況を把握し、緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(2)継続支援のため、情報整理・分析により課題を明確にしている		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
	自己評価	行政評価
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談内容をすぐに全員で情報共有することで、それぞれの役割が明確化でき、迅速な対応につながっている。</li> <li>初期集中をはじめ、困難ケースは全員で関わることで、それぞれのスキルを生かした関りができるよう努めている。</li> </ul>	3職種の専門性を生かし、職員全体で情報共有し、協力して速やかに対応していることを評価する。今後も関係職種で協力体制を築きながら対応していくことを期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
	自己評価	行政評価
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの関係でケアマネ会は活動休止しているが、地域での困難ケースなど、ケアマネジャーを巻き込んだ地域ケア会議などを行い、見える関係づくりに取り組んでいる。</li> </ul>	コロナ禍により、ケアマネ会の活動はできなかったが、ケアマネジャーに地域ケア会議に参加してもらいケアマネジャーの資質向上を図っている。また、必要な情報が必要な人に的確に伝わるよう情報収集を行い、整理されていることも評価する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・不明な点は、関係専門職からも情報をもらいながら個々に伝えることで、無駄なサービスを利用しなくても自立できるようスタッフ全員が心掛けながら対応している。(本人の希望と状態を評価し、伝え方、働きかけ方を検討している)	本人の状態等を考慮し、インフォーマルサービスを含めた支援を行えている。感染予防のため外出を控えている方の機能低下を防ぐため、今後も介護予防支援やフォローに期待する。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	・個々のケースの課題を地域に投げかけたり、地域の課題と個人課題のすり合わせを行い課題整理しながら、それぞれができる範囲の役割を担うことで、他のケースにも共通に関われるよう意識しながら、支援している。(個別ケースから地域の力の底上げを意識)	初期集中支援チームの活用にあたっては、職員全体で相談し合いながら決定している。また、認知症地域支援推進員との連携を図り、地域ケア会議の開催や、認知症サポーター養成講座の開催による普及を図っていることも評価する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・医療機関等と常に連絡を取り合うように努め、その課題を解決することでのつながりを大切に、別ケースでもスムーズに受け入れてもらえるよう心掛けている。	医療機関や介護事業所との連携を大切にし、スムーズかつ速やかな支援がなされている。今後も各種関係者との良好かつ円滑な医療介護連携を図ることを期待する。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと地域における高齢者ニーズや社会資源について協議しているか		
特記事項	自己評価	行政評価
	本人に直接会えないケースでも、周辺情報を収集し、仮説を立て地域ケア会議を行うなどコロナ禍でも適応できるよう試みながら、生活支援コーディネーターや成年後見支援センターとも連携を深めるよう働きかけている。	地域課題としてペット問題に着手し、社協の犬猫一時預かり事業へと繋がったことを評価する。今後も、地域課題に対して、生活支援コーディネーターと連携しながら進めていくことを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている(コロナ禍における自粛対応含め)		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	・講話などのリスクを回避しながら、できるだけ継続できるよう運営していくことが、介護予防につながると考え、スタッフと取り組んでいる。 ・介護予防が期待できる必要な方には参加を促し、ごく少人数だが運動の機会を提供している。	コロナ禍により、十分な運営を行うことができなかったが、介護予防教室は、感染対策をしながら工夫して取り組んだことを評価する。コロナ禍で機能維持するためにできる活動を模索しながら継続することを期待する。

○評価基準

◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた

○ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している

△ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった

× 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域地域ケア会議を見合わせ、個別地域ケア会議から地域での見守り活動も含め発信するよう努めた。また、訪問や目視できない(会えない)対象者に対しての地域ケア会議にも取り組み、コロナ禍でもできる地域ケア会議のあり方も模索している。</li> <li>・認知症初期集中支援も全員で関わることで短期間で終結に結び付けつつ、一連の流れや考え方を統一するよう取り組んだ。</li> </ul>
2 今年度事業の達成状況及び成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域地域ケア会議は、当面リスクがあるため見合わせる代わりに、個別地域ケア会議からの地域や関係機関への働きかけや連携を学ぶ機会となった。</li> </ul>
3 達成できた又は達成できなかった原因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員不足の中でもできることを行ってきた。非常事態の中でも最大限できることを行っている。(評価尺度が想定できない)</li> </ul>
4 課題及び今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応が継続することを考え、その中でもできることを模索しながら業務を進めているため、従来とは異なる関わり方をいろいろ試しながら取り組んでいく。</li> </ul>